

注 記

写真は、国立国会図書館公開の「明治大正建築写真聚覧」の第 70 図版（コマ番号 73 の下段）である。書籍へのリンクを示したので、当該図版を参照いただきたい。

東京地学協会

所在地：東京・数寄屋橋

竣工：明治 22 年 11 月

経過：大正 12 年 9 月焼失

設計者：

施工者：日本土木會社

（明治大正建築写真聚覧 建築学会編 昭和 11 年より）

明治大正建築写真聚覧は、「昭和 11 年（1936 年）の建築学会創立五十周年記念として行なわれた展覧会に出展された名建築の写真を編集したもので、収集された作品は、その時代を代表した、社会的にも名声を得、建築的特徴を有するなどの名品ばかりで、明治元年（1868 年）から大正 15 年（1926 年）までに竣工した 250 作品である。収録された写真は、竣工時にできるだけ近いものが選定された（日本建築学会ウェブサイト）」とされている。

当時会館があった西紺屋町は、明治 5 年（1872）の銀座大火の焼跡に建設された銀座煉瓦街の一角である。東京地学協会は、その煉瓦家屋を購入して事務所とし、一部は貸付物件とした。大正 12 年 9 月の関東大震災で建物は焼失し、約 40 年にわたる西紺屋町の時代は終わる。

震災後は、しばらく役員宅や地質調査所内に臨時事務所をおいたが、昭和 3 年（1928）に西紺屋町の土地と借地権を売却し、その資金により麴町区下二番町 48 番地（現在千代田区二番町 12-2）の土地を購入、会館を建設して昭和 5 年（1930）に事務所を移転した。

その経緯は以下のとおり。

- 1872 明治 5 年 2 月：銀座、築地一帯約 95 ヘクタールが火事により焼失（銀座大火）
3 月：東京府が全域を買収し、区画整理後払い下げるといふ布告を发出 その後事業主体は大蔵省建設局に移行し、官営で煉瓦建物を建築し払い下げの方針となる（一部は民営）。
8 月：着工
- 1873 明治 6 年：払下げ開始 第 1 次工事以外は区画整理のみ 木挽町より東は計画放棄
- 1877 明治 10 年：計画完了
- 1879 明治 12 年 4 月 18 日：東京地学協会創立 事務所を学習院（神田区錦町 3 丁目 1 番地）に置く。
- 1882 明治 15 年 8 月 24 日：京橋区西紺屋町 17、18 番地にある 2 等煉瓦家屋 5 戸分の売物を買入れ、修繕に 4000 円を支出し、不要の分は他会に貸付ることを決定（東京

地学協会報告第4巻第3号東京地学協会録事 p1；復刻版 5 171) 注1) 貸付先は、万年会、かなの会（後に日本鉱業会；注2）、亜細亜協会（東京地学協会第5年報告報 p16；復刻版 8 410）

なお、東京地学協会第4年報「会計の大要」には、「明治15年8月24日決議により京橋区西紺屋町19番地の地所建物を購求し（東京地学協会第4年報告報 p12；復刻版 6 372）」と17、18番地の家屋とは別に19番地の土地と家屋を購入したように記載されている。また、明治15年9月以降大正5年4月まで19番地、大正5年5月以降18、19番地を協会の住所としている（注3）。地番の記載が不安定だが、筆界変更や筆をまたがる増築があった可能性がある。

1883 明治16年：平野茶店が現在の銀座三越の位置に創業。これが銀座煉瓦街入居者第1号とされていることがあるが、東京地学協会はこれより早く煉瓦街に入居した。

1889 明治22年3月12日：芝公園地内に本館新築すべき計画を廃して更に従来の本館を改造修築することを決定（東京地学協会報告第10年第11号東京地学協会録事 p1；復刻版 14 437）。

11月：改造修築竣工（明治大正建築写真聚覧第70図版）

12月14日：午後5時会館で改築の祝を兼て宴会を開く（東京地学協会報告第11年第9号東京地学協会録事 p1；復刻版 15 431）。

1901 明治34年 建築学会に事務所貸付開始（日本建築学会120周年記念年表）注4）

1903 明治36年6月25日 建築学会と協会倉庫の間から出火、出版物在庫の大半を焼失（地学雑誌 15 571）

1916 大正5年：会館補修の方針決定（地学雑誌 28 522）

1916 大正5年5月：会館の住所を18、9番地とする（地学雑誌 28-5 奥付）。

1917 大正6年2月14日：増改築竣工（地学雑誌 29 125、29-2 口絵に写真と平面図があり、写真から判断すると明治22年に改築した建物をさらに増改築したと思われる。）

1919 大正8年：建築学会、事務所を明治生命館内に移転（建築学会年表）

1923 大正12年9月：関東大震災により会館焼失。主幹井上福之助方（芝区白金今里町96番地）に仮事務所をおく（地学雑誌 35 542）。

1926 大正14年7月 地質調査所（京橋区木挽町9丁目29番地）に事務所を間借り（地学雑誌 37 7号広告）（地質調査所百年史 42p に写真）

1928 昭和3年3月8日西紺屋町19番地の土地所有権と借地権（17番地及び18番地？）の売却を決議（地学雑誌 40 239）

5月25日：同上売却（地学雑誌 42 738）

9月27日：麴町区下二番町48番地の土地201坪84を松平直之伯爵より購入、直ちに岡崎恭光子爵に設計を依頼（地学雑誌 42 738）

年末：小柳組に建築工事を依頼（地学雑誌 42 738）

1930 昭和5年10月29日：会館竣工（地学雑誌 42-10 500号に落成写真）

注1) この地域の煉瓦家屋は、明治5年の大火災の後、耐火構造の町作りを目指して進められた銀座煉瓦街を構成するもので、前面の道路幅に応じて通りに面する煉瓦家屋は1等から3等に規格化されていて、2等煉瓦家屋は8間幅の道路に面する建物で

ある（藤森;1982 p11 表 1）。

注2) 日本鉱業会は、明治18年1月当時の京橋区西紺屋町19番地の地学協会会館において創立総会を開催、工学会の長男として独立発足したが、事務所は引続き同会館の一部を借用した（日本鉱業会誌 **102** no.1182；創立当時の会館写真あり）。日本鉱業会誌の事務所写真は角地ではなく道路には1面が接しているの、19番地ではなく、17番地又は18番地の煉瓦家屋と思われる。

注3) 藤森、1982、図4に、西紺屋町19番地に2等煉瓦家屋5戸分が描かれている。参謀本部陸軍部測量局、1883、五千分一東京図測量原図「東京府武蔵国麴町区八重洲町近傍」下辺部に、防火的建造物塙工製家屋が紅系統の色彩で描かれている。

明治6年大壺大区沽券図（東京都中央区教育委員会、1996）に、17番地は安積儀八所有105坪1号7勺3才850円、18番地は佐藤又兵衛所有、74坪2勺7才560円、19番地は金井六郎兵衛所有46坪4合2勺5才300円とされている。それぞれ坪単価8.08円、7.54円、6.46円で、平均すると7.58円である。第十年年会報告「会計の大要」の資産表では19番地70坪余の土地を700円で購入したことになるので、購入した土地の坪単価は約10円となる。購入時の坪単価は、明治六年の沽券図より3～5割高いが、明治5年の銀座地区区画整理の影響かも知れない。なお、19番地が70坪余とされているので、沽券図作成後、筆界が変更されたと思われる。参考までに、銀座4丁目交差点の土地は明治5年から15年までに価格が4倍になっている（藤森、1982、表3）。

また、関東大震災後、この土地を売却した際、併せて接続地の借地権も売却したとされているので、当時所有していた建物は、19番地70坪の土地に加えいくらかの借地（17番地、18番地？）にまたがって存在していたと思われる。

注4) 大正元年京橋区地籍図（東京都中央区教育委員会;1996）には、西紺屋町19番地に建築学会の注記があり、貸付たのは19番地の建物の一部と思われる。道をはさんだ向かいの西紺屋町20-1番地に福音会英語学校及び赤字で目立つように記された銀座教会、東に隣接する新肴町9番地に東京地文教会（東京地学協会と紛らわしい名称）、その道をはさんだ向かい（したがって副音階英語学校の隣）の弥左衛門町1番地に日本メソジスト銀座教会が注記されている。この一角が欧米文化の香りがする一角だったことをうかがわせる。

文献

- 建築學會／明治建築資料に関する委員会編（1936）明治大正建築写真聚覧250写真
参謀本部陸軍部測量局（1883）五千分一東京図測量原図「東京府武蔵国麴町区八重洲町近傍」
日本地図センター（1992）地図でみる東京の変遷に集録
地質調査所百年史編集委員会（1982）地質調査所百年史 地質調査所創立百年記念協賛会
162p
東京都中央区教育委員会（1996）中央区沿革図集〔京橋編〕 東京都中央区京橋図書館 351p

藤森照信（1982）明治の東京計画 岩波書店 330p

ウェブサイト

国立国会図書館所蔵「明治大正建築写真聚覧」：<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1223059> 第 70
図版（コマ番号 73）

日本建築学会デジタルアーカイブス「明治大正建築写真聚覧」：
<https://www.aij.or.jp/da1/zumenshasin/meijitaishou.html>

日本建築学会 120 周年記念年表：https://www.aij.or.jp/jpn/guide/120th_chronological_table.pdf